

再評価結果(平成24年度事業継続箇所)

担当課:道路局 高速道路課

担当課長名:縄田 正

事業名	ひがしかんとう 東関東自動車道 水戸線(銚田～茨城町JCT)		事業区分	高速自動車国道	事業主体	東日本高速道路(株)
起終点	自:茨城県銚田市飯名 至:茨城県東茨城郡茨城町大字小鶴				延長	17km
事業概要	東関東自動車道水戸線は北関東自動車道、常磐自動車道と一体となって東関東地域と首都圏との結びつきをより一層強化し、東関東地域の発展に資する路線である。					
H11年度事業化	H8年度都市計画決定		H14年度用地着手		H17年度工事着手	
全体事業費	約484億円	事業進捗率	50%	供用済延長	8.8 km	
計画交通量	13,100～13,500台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 2.6 (残事業) 5.7	総費用 (残事業)/(事業全体) 260 / 564億円 事業費:163 / 467億円 維持管理費: 97 / 97億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 1,480 / 1,480億円 走行時間短縮便益: 1,210 / 1,210億円 走行経費減少便益: 164 / 164億円 交通事故減少便益: 106 / 106億円	基準年 平成23年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施 交通量変動 : B/C = 6.3 (交通量 +10%) B/C = 5.1 (交通量 -10%) 事業費変動 : B/C = 5.4 (事業費 +10%) B/C = 6.1 (事業費 -10%) 事業期間変動 : B/C = 5.9 (事業期間-1年) B/C = 5.5 (事業期間+1年)					
事業の効果等	当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する 緊急輸送道路が通行止めになった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる 他 7項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	茨城県知事の見解:本県にとって、東関東自動車道水戸線は、国際バルク戦略港湾の鹿島港、茨城港、さらに茨城空港や成田空港などを結び、広域的な交流・連携を促進することはもとより、災害時の緊急輸送路としても重要な道路であり、本県の復興の柱となることから、整備を着実に進め、平成27年度の供用をお願いしたい。					
事業評価監視委員会の意見	対応方針(原案)のとおり了承。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成22年3月11日に茨城空港が開港。 平成20年10月に隣接する潮来～銚田間が都市計画決定。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	茨城空港北～茨城町JCT間は、平成22年3月6日に開通済みである。 銚田～茨城空港北間は調査・設計を実施しており、現在設計協議が完了し幅杭設計及び用地関係調査を実施中である。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	平成27年度の完成を目指して事業を着実に推進している。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト削減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。					
事業概要図						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。